

【2026 N26日本文化学科 カリキュラムマップ】

授業科目		<p>文学部日本文化学科は、本学科の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を充たすとともに、歴史・民俗、文学・芸術にわたる日本の文化的伝統に関する豊かな経験と深い認識とを有し、それを地域の文化や現代社会に生かしてゆける、以下の知識・能力・資質等を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与します。そのために、本学科のアセスメントプラン(アセスメント・ポリシー)を策定します。</p> <p>1. <専門的知識と技能> 日本文化について、幅広い専門的知識を修得し、課題に応じて適切に情報を収集分析し、本学科の各基幹分野の研究方法を応用して解明することができる。</p> <p>2. <知識や技能の活用> 変化する社会状況に応じて、日本文化に関する深い見識や修得した研究能力、表現・発信力を生かして、社会や地域に関する諸問題について自らの見解を持ち、他者に適確に伝えることができる。</p> <p>3. <主体的な意識と態度> 日本文化を深く理解し、文化の力を通して地域や社会に貢献することを目指す者として、自らの目標をもち、その実現のために主体的に学ぶことができる。</p> <p>4. <多様なコミュニケーション> 国際的視野に立った豊かな教養と日本文化に関する深い見識に基づき、文化・社会的背景の異なる多様な人々について相手の立場に立って理解し、配慮しながら、精確な表現力を用いて協働することができる。</p> <p>5. <社会人としての自立> 社会人としての責任感を持ち、地域や社会の動向をふまえて現場で必要とされる実践力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。</p>					
		1	2	3	4	5	
専門基礎科目	基礎演習A	◎		○	○		
	基礎演習B	◎		○	○		
	奈良学A	◎		○			
	奈良学B	◎		○			
	日本文化演習A	○	◎	○	○		
	日本文化演習B	○	◎	○	○		
	日本史概論A	◎		○			
	日本史概論B	◎		○			
	日本文化史概論	◎		○			
	日本美術史概論	◎		○			
	日本民俗学概論A	◎		○			
	日本民俗学概論B	◎		○			
	日本考古学概論A	◎		○			
	日本考古学概論B	◎		○			
	日本文学概論A	◎		○			
	日本文学概論B	◎		○			
	日本演劇概論	◎		○			
	日本文学史A	◎		○			
	日本語概説A	◎		○			
	地域文化概論	◎		○			
学外実習	◎		○				
文化財・文化遺産系	考古学実習A	○	◎	○		○	
	考古学実習B	○	◎	○	○	○	
	民俗学実習A	○	◎	○	○	○	
	民俗学実習B	○	◎	○	○	○	
	美術史実習A	○	◎	○	○	○	
	美術史実習B	○	◎	○	○	○	
	民俗学A	◎	○	○			
	民俗学B	◎	○	○			
	民俗学C	◎	○	○			
	民俗学D	◎	○	○			
	考古学A	◎	○	○			
	考古学B	◎	○	○			
	考古学C	◎	○	○			
	考古学D	◎	○	○			
	美術史A	◎	○	○			
	美術史B	◎	○	○			
	美術史C	◎	○	○			
	美術史D	◎	○	○			
	地域文化A(フィールドワーク入門)	◎	○	○			
	地域文化B(地域と伝統産業)	◎	○	○			
地域文化C(地域と観光)	◎	○	○				
地域文化D(地域と行政)	◎	○	○				
地域文化特講A	○	◎	○	○	○		
地域文化特講B	○	◎	○	○	○		
専門基	日本中	古文書実習A	○	◎	○	○	○
		古文書実習B	○	◎	○	○	○
		古代史A	◎	○	○		
		古代史B	◎	○	○		
		中世史A	◎	○	○		
		中世史B	◎	○	○		
		近世史A	◎	○	○		
		近世史B	◎	○	○		
		近・現代史A	◎	○	○		
		近・現代史B	◎	○	○		

幹 科 目	大系	社会史A	◎	○	○		
		社会史B	◎	○	○		
		文化史A	◎	○	○		
		文化史B	◎	○	○		
		歴史のなかのジェンダー	◎	○	○		
		グローバルな歴史	◎	○	○		
		日本史特講A	○	◎	○		
		日本史特講B	○	◎	○		
		日本史研究	○	◎	○	○	○
	日本語・日本文学系	日本語文法入門A	◎		○		
		日本語文法入門B	◎		○		
		日本文学史B	◎		○		
		日本文学史C	◎		○		
		日本文学史D	◎		○		
		日本語概説B	◎		○		
		日本語表現論A	◎	○	○		
		日本語表現論B	◎	○	○		
		表現文法論A	◎	○	○		
		表現文法論B	◎	○	○		
		日本語史A	◎	○	○		
		日本語史B	◎	○	○		
		日本文学特講A	◎	○	○		
		日本文学特講B	◎	○	○		
		日本文学特講C	◎	○	○		
		日本文学特講D	◎	○	○		
		日本文学特講E	◎	○	○		
		日本文学特講F	◎	○	○		
		日本文学特講G	◎	○	○		
		日本文学特講H	◎	○	○		
		日本演劇特講A	◎	○	○		
		日本演劇特講B	◎	○	○		
		日本文学講読A	○	◎	○	○	
		日本文学講読B	○	◎	○	○	
	日本文学研究A	○	◎	○	○	○	
	日本文学研究B	○	◎	○	○	○	
専 門 関 連 科 目 系	日本文化への多角的アプローチ	◎		○			
	人文地理学	○		◎			
	自然地理学	○		◎			
	日本地誌	○		◎			
	世界地誌	○		◎			
	地誌学	○		◎			
	東洋史A	○		◎			
	東洋史B	○		◎			
	西洋史A	○		◎			
	西洋史B	○		◎			
	哲学概説A	○		◎			
	哲学概説B	○		◎			
	仏教文化論		○	◎			
	生涯学習概論	○		◎			
	博物館概論	○		◎			
	博物館資料論	○		◎			
	博物館展示論		○	◎			
	漢文概説	○		◎			
	漢文特講		○	◎			
	書道	○		◎			
	文章表現実習A(基礎)		○	◎	◎		
	文章表現実習B(応用)		○	◎	◎	○	
	図書館概論	○		◎			
	図書館情報資源概論	○		◎			
図書館情報資源特論	○		◎				
日本国憲法A	○		◎				
日本国憲法B	○		◎				
社会学	○		◎				
奈良の文化遺産	◎	○	◎				
奈良の伝統芸能	◎	○	◎				
ナ ー ゼ ミ ン グ	ゼミナールⅠ	○	◎	○	○	○	
	ゼミナールⅡ(卒業研究)	○	○	○	○	◎	

【2026 N23～N25日本文化学科 カリキュラムマップ】

授業科目	<p>文学部日本文化学科は、本学科の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を充たすとともに、歴史・民俗、文学・芸術にわたる日本の文化的伝統に関する豊かな経験と深い認識とを有し、それを地域の文化や現代社会に生かしてゆける、以下の知識・能力・資質等を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与します。そのために、本学科のアセスメントプラン(アセスメント・ポリシー)を策定します。</p> <p>1. <専門的知識と技能> 日本文化について、幅広い専門的知識を修得し、課題に応じて適切に情報を収集分析し、本学科の各基幹分野の研究方法を応用して解明することができる。</p> <p>2. <知識や技能の活用> 変化する社会状況に応じて、日本文化に関する深い見識や修得した研究能力、表現・発信力を生かして、社会や地域に関する諸問題について自らの見解を持ち、他者に適確に伝えることができる。</p> <p>3. <主体的な意識と態度> 日本文化を深く理解し、文化の力を通して地域や社会に貢献することを目指す者として、自らの目標をもち、その実現のために主体的に学ぶことができる。</p> <p>4. <多様なコミュニケーション> 国際的視野に立った豊かな教養と日本文化に関する深い見識に基づき、文化・社会的背景の異なる多様な人々について相手の立場に立って理解し、配慮しながら、精確な表現力を用いて協働することができる。</p> <p>5. <社会人としての自立> 社会人としての責任感をもち、地域や社会の動向をふまえて現場で必要とされる実践力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。</p>				
	1	2	3	4	5
専門基礎科目	基礎演習A	◎		○	
	基礎演習B	◎		○	
	奈良学A	◎		○	
	奈良学B	◎		○	
	日本文化演習A	○	◎	○	○
	日本文化演習B	○	◎	○	○
	日本史概論A	◎		○	
	日本史概論B	◎		○	
	日本文化史概論	◎		○	
	日本美術史概論	◎		○	
	日本民俗学概論A	◎		○	
	日本民俗学概論B	◎		○	
	日本考古学概論A	◎		○	
	日本考古学概論B	◎		○	
	日本文学概論A	◎		○	
	日本文学概論B	◎		○	
	日本演劇概論	◎		○	
	日本文学史A	◎		○	
日本語概説A	◎		○		
地域文化概論	◎		○		
日本語教育概論	◎		○		
学外実習	◎		○		
歴史・文化財系	古文書基礎実習	◎	◎	○	
	古文書実習	◎	◎	○	○
	日本史研究	◎	◎	○	○
	考古学実習A	◎	◎	○	○
	考古学実習B	◎	◎	○	○
	民俗学実習A	◎	◎	○	○
	民俗学実習B	◎	◎	○	○
	美術史実習A	◎	◎	○	○
	美術史実習B	◎	◎	○	○
	民俗学A	◎	○	○	
	民俗学B	◎	○	○	
	民俗学C	◎	○	○	
	民俗学D	◎	○	○	
	考古学A	◎	○	○	
	考古学B	◎	○	○	
	考古学C	◎	○	○	
	考古学D	◎	○	○	
	美術史A	◎	○	○	
	美術史B	◎	○	○	
	美術史C	◎	○	○	
	美術史D	◎	○	○	
	古代史A	◎	○	○	
	古代史B	◎	○	○	
	中世史A	◎	○	○	
	中世史B	◎	○	○	
	近世史A	◎	○	○	
	近世史B	◎	○	○	
	近・現代史A	◎	○	○	
近・現代史B	◎	○	○		
日本語文法入門A	◎		○		

専門基幹科目	日本文学系	日本語文法入門B	◎		○		
		日本文学史B	◎		○		
		日本文学史C	◎		○		
		日本文学史D	◎		○		
		日本語概説B	◎		○		
		日本語表現論A	◎	○	○		
		日本語表現論B	◎	○	○		
		表現文法論A	◎	○	○		
		表現文法論B	◎	○	○		
		日本語史A	◎	○	○		
		日本語史B	◎	○	○		
		日本文学特講A	◎	○	○		
		日本文学特講B	◎	○	○		
		日本文学特講C	◎	○	○		
		日本文学特講D	◎	○	○		
		日本文学特講E	◎	○	○		
		日本文学特講F	◎	○	○		
		日本文学特講G	◎	○	○		
		日本文学特講H	◎	○	○		
		日本演劇特講A	◎	○	○		
		日本演劇特講B	◎	○	○		
		日本文学講読A	○	◎	○	○	
		日本文学講読B	○	◎	○	○	
		日本文学研究1	○	◎	○	○	○
		日本文学研究2	○	◎	○	○	○
日本語教育系	地域文化A(奈良の文化遺産)	◎	○	○			
	地域文化B(奈良の伝統芸能)	◎	○	○			
	地域文化C(奈良の伝統産業)	◎	○	○			
	地域文化D(奈良の観光)	◎	○	○			
	地域文化E(地域デザイン)	◎	○	○			
	地域文化F(地域と行政)	◎	○	○			
	国際文化A(アジアのなかの日本)	◎	○	○			
	国際文化B(異文化コミュニケーション)	◎	○	○			
	国際文化C(グローバル・スタディ)	◎	○	○			
	地域文化実習A	○	◎	○	○	○	
	地域文化実習B	○	◎	○	○	○	
	日本語教材研究A	◎	○	○			
	日本語教材研究B	◎	○	○			
	日本語教授法	◎	○	○			
	子どものための日本語教育	◎	○	○			
	日本語教育実習(事前・事後指導含む)		○	○	○	◎	
	国際文化実習	○	◎	○	○	○	
日本語教育史	◎	○	○				
世界の言語と日本語	◎	○	○				
専門関連科目系	日本文化への多角的アプローチ	◎		○			
	人文地理学	○		◎			
	自然地理学	○		◎			
	日本地誌	○		◎			
	世界地誌	○		◎			
	地誌学	○		◎			
	東洋史A	○		◎			
	東洋史B	○		◎			
	西洋史A	○		◎			
	西洋史B	○		◎			
	哲学概説A	○		◎			
	哲学概説B	○		◎			
	仏教文化論		○	◎			
	生涯学習概論	○		◎			
	博物館概論	○		◎			
	博物館資料論	○		◎			
	博物館展示論		○	◎			
	漢文概説	○		◎			
	漢文特講		○	◎			
	書道	○		◎			
	文章表現実習A(基礎)		○	○	◎		

	文章表現実習B(応用)		○	○	◎	○
	図書館概論	○		◎		
	図書館情報資源概論	○		◎		
	図書館情報資源特論	○		◎		
	日本国憲法A	○		◎		
	日本国憲法B	○		◎		
	社会学	○		◎		
	フィールドワーク入門	◎	○	○		
ナ ゼ ミ	ゼミナール I	○	◎	○	○	○
	ゼミナール II (卒業研究)	○	○	○	○	◎

【2026 日本文学学科 司書 カリキュラムマップ】

授業科目	<p>文学部日本文学学科は、本学科の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を充たすとともに、歴史・民俗、文学・芸術にわたる日本の文化的伝統に関する豊かな経験と深い認識とを有し、それを地域の文化や現代社会に生かしてゆける、以下の知識・能力・資質等を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与します。そのために、本学科のアセスメントプラン(アセスメント・ポリシー)を策定します。</p> <p>1. <専門的知識と技能> 日本文化について、幅広い専門的知識を修得し、課題に応じて適切に情報を収集分析し、本学科の各基幹分野の研究方法を応用して解明することができる。</p> <p>2. <知識や技能の活用> 変化する社会状況に応じて、日本文化に関する深い見識や修得した研究能力、表現・発信力を生かして、社会や地域に関する諸問題について自らの見解を持ち、他者に適確に伝えることができる。</p> <p>3. <主体的な意識と態度> 日本文化を深く理解し、文化の力を通して地域や社会に貢献することを目指す者として、自らの目標をもち、その実現のために主体的に学ぶことができる。</p> <p>4. <多様なコミュニケーション> 国際的視野に立った豊かな教養と日本文化に関する深い見識に基づき、文化・社会的背景の異なる多様な人々について相手の立場に立って理解し、配慮しながら、精確な表現力を用いて協働することができる。</p> <p>5. <社会人としての自立> 社会人としての責任感をもち、地域や社会の動向をふまえて現場で必要とされる実践力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。</p>				
	1	2	3	4	5
生涯学習概論	○		◎		
図書館概論	○		◎		
図書館サービス概論	○	○	◎		
図書館制度・経営論		○	◎		
情報サービス論	○		◎		
情報サービス演習A		○	◎	○	
情報サービス演習B		○	◎	○	
図書館情報技術論	○		◎		
図書館情報資源概論	○		◎		
情報資源組織論		○	◎	○	
情報資源組織演習A		○	◎	○	
情報資源組織演習B		○	◎	○	
児童サービス論		○	◎	○	
図書・図書館史	○		◎		
図書館情報資源特論	○		◎		
図書館基礎特論	○		◎		

【2026 日本文化学科 学芸員 カリキュラムマップ】

授業科目	<p>文学部日本文化学科は、本学科の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を充たすとともに、歴史・民俗、文学・芸術にわたる日本の文化的伝統に関する豊かな経験と深い認識とを有し、それを地域の文化や現代社会に生かしてゆける、以下の知識・能力・資質等を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与します。そのために、本学科のアセスメントプラン(アセスメント・ポリシー)を策定します。</p> <p>1. <専門的知識と技能> 日本文化について、幅広い専門的知識を修得し、課題に応じて適切に情報を収集分析し、本学科の各基幹分野の研究方法を応用して解明することができる。</p> <p>2. <知識や技能の活用> 変化する社会状況に応じて、日本文化に関する深い見識や修得した研究能力、表現・発信力を生かして、社会や地域に関する諸問題について自らの見解を持ち、他者に適確に伝えることができる。</p> <p>3. <主体的な意識と態度> 日本文化を深く理解し、文化の力を通して地域や社会に貢献することを目指す者として、自らの目標をもち、その実現のために主体的に学ぶことができる。</p> <p>4. <多様なコミュニケーション> 国際的視野に立った豊かな教養と日本文化に関する深い見識に基づき、文化・社会的背景の異なる多様な人々について相手の立場に立って理解し、配慮しながら、精確な表現力を用いて協働することができる。</p> <p>5. <社会人としての自立> 社会人としての責任感をもち、地域や社会の動向をふまえて現場で必要とされる実践力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。</p>				
	1	2	3	4	5
生涯学習概論	○		◎		
博物館概論	○		◎		
博物館経営論		○	◎		
博物館資料論	○		◎		
博物館資料保存論		○	◎	○	
博物館展示論		○	◎	○	
博物館教育論	○		◎		
博物館情報・メディア論		○	◎		
博物館実習Ⅰ		○		◎	○
博物館実習Ⅱ		○		○	◎

【2026 日本文化学科 司書教諭 カリキュラムマップ】

授業科目	<p>文学部日本文化学科は、本学科の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を充たすとともに、歴史・民俗、文学・芸術にわたる日本の文化的伝統に関する豊かな経験と深い認識とを有し、それを地域の文化や現代社会に生かしてゆける、以下の知識・能力・資質等を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与します。そのために、本学科のアセスメントプラン(アセスメント・ポリシー)を策定します。</p> <p>1. <専門的知識と技能> 日本文化について、幅広い専門的知識を修得し、課題に応じて適切に情報を収集分析し、本学科の各基幹分野の研究方法を応用して説明することができる。</p> <p>2. <知識や技能の活用> 変化する社会状況に応じて、日本文化に関する深い見識や修得した研究能力、表現・発信力を生かして、社会や地域に関する諸問題について自らの見解を持ち、他者に適確に伝えることができる。</p> <p>3. <主体的な意識と態度> 日本文化を深く理解し、文化の力を通して地域や社会に貢献することを目指す者として、自らの目標をもち、その実現のために主体的に学ぶことができる。</p> <p>4. <多様なコミュニケーション> 国際的視野に立った豊かな教養と日本文化に関する深い見識に基づき、文化・社会的背景の異なる多様な人々について相手の立場に立って理解し、配慮しながら、精確な表現力を用いて協働することができる。</p> <p>5. <社会人としての自立> 社会人としての責任感をもち、地域や社会の動向をふまえて現場で必要とされる実践力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。</p>				
	1	2	3	4	5
学校経営と学校図書館		○	◎	○	
学校図書館メディアの構成	○	○	◎		
学習指導と学校図書館	○		◎		
読書と豊かな人間性	○	○	◎		
情報メディアの活用		○	◎		

5区分	必須の教育内容50およびその他の教育内容	授業科目	<p>文学部日本文化学科は、本学科の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を充たすとともに、歴史・民俗・文学・芸術にわたる日本の文化的伝統に関する豊かな経験と深い認識とを有し、それを地域の文化や現代社会に生かしてゆける、以下の知識・能力・資質等を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与します。そのために、本学科のアセスメントプラン(アセスメント・ポリシー)を策定します。</p> <p>1. <専門的知識と技能> 日本文化について、幅広い専門的知識を修得し、課題に応じて適切に情報を収集分析し、本学科の各基幹分野の研究方法を応用して説明することができる。</p> <p>2. <知識や技能の活用> 変化する社会状況に応じて、日本文化に関する深い見識や修得した研究能力、表現・発信力を生かして、社会や地域に関する諸問題について自らの見解を持ち、他者に適確に伝えることができる。</p> <p>3. <主体的な意識と態度> 日本文化を深く理解し、文化の力を通して地域や社会に貢献することを目指す者として、自らの目標をもち、その実現のために主体的に学ぶことができる。</p> <p>4. <多様なコミュニケーション> 国際的視野に立った豊かな教養と日本文化に関する深い見識に基づき、文化・社会的背景の異なる多様な人々について相手の立場に立って理解し、配慮しながら、精確な表現力を用いて協働することができる。</p> <p>5. <社会人としての自立> 社会人としての責任感を持ち、地域や社会の動向をふまえて現場で必要とされる実践力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。</p>					
			1	2	3	4	5	
I	(1) 世界と日本の社会と文化	日本文学概論A	◎		○			
I	(1) 世界と日本の社会と文化	日本文学概論B	◎		○			
I	(1) 世界と日本の社会と文化	日本史概論A	◎		○			
I	(1) 世界と日本の社会と文化	日本史概論B	◎		○			
I	(1) 世界と日本の社会と文化	日本文化史概論	◎		○			
I	(1) 世界と日本の社会と文化	地域文化概論	◎		○			
I	(1) 世界と日本の社会と文化	社会・文化(異文化の理解)		○			◎	○
I	(1) 世界と日本の社会と文化	国際文化A(アジアの中の日本)	◎	○	○			
I	(2) 日本の在外外国人施策							
I	(3) 多文化共生(地域社会における共生)							
I	(4) 日本語教育史	日本語教育史	◎	○	○			
I	(5) 言語政策							
I	(6) 日本語の試験							
I	(7) 世界と日本の日本語教育事情							
II	(13) 多文化・多言語主義							
I	年少者日本語教育	子どものための日本語教育	◎	○	○			
I	指導案と教材の作成							
II	多言語多文化環境における子どもの言語習得							
II	(8) 社会言語学							
II	(9) 言語政策とことば							
III	(18) 異文化受容・適応	世界の言語と日本語	◎	○	○			
III	(19) 日本語の学習・教育の情意的側面							
V	(37) 一般言語学							
V	(38) 対照言語学							
III	(19) 日本語の学習・教育の情意的側面	教育心理学				○		◎
I	(7) 世界と日本の日本語教育事情							
II	(10) コミュニケーションストラテジー							
II	(11) 待遇・敬意表現							
II	(12) 言語・非言語行動	日本語教育概論	◎		○			
II	(13) 多言語・多文化主義							
IV	(33) 異文化コミュニケーション							
IV	(34) コミュニケーション教育							
V	(39) 日本語教育のための日本語分析	国際文化B(異文化コミュニケーション)	◎	○	○			
IV	(32) 異文化間教育							
IV	(33) 異文化コミュニケーション							
IV	(34) コミュニケーション教育							
V	(46) 受容・理解能力	国際文化C(グローバル・スタディ)	◎	○	○			
V	(47) 言語運用能力							
V	(48) 社会文化能力							
V	(49) 対人関係能力							
V	(50) 異文化調整能力							
V	(39) 日本語教育のための日本語分析	日本語概説A	◎		○			
V	(40) 日本語教育のための音韻・音声体系							
V	(41) 日本語教育のための文字と表記							
V	(42) 日本語教育のための形態・語彙体系							
V	(39) 日本語教育のための日本語分析	日本語概説B	◎		○			
V	(43) 日本語教育のための文法体系							
V	(44) 日本語教育のための意味体系							
V	(45) 日本語教育のための語用論的規範							
III	(14) 談話理解							
III	(15) 言語学習							
III	(16) 言語過程(第一言語・第二言語)							
III	(17) 学習ストラテジー							
IV	(20) 日本語教師の資質・能力	日本語教授法	◎	○	○			
IV	(21) 日本語教育プログラムの理解と実践							
IV	(22) 教室・言語環境の設定							
IV	(24) 教授法							
IV	(29) 中間言語分析							
IV	(31) 目的・対象別日本語教育法							
IV	(23) コースデザイン	日本語教材研究A(初級クラス)	◎	○	○			
IV	(25) 教材分析・作成・開発							
IV	(26) 評価法							
IV	(27) 授業計画							
IV	(30) 授業分析・自己点検能力	日本語教材研究B(中・上級クラス)	◎	○	○			
IV	(31) 目的・対象別日本語教育法							
IV	(35) 日本語教育とICT							
IV	(36) 著作権							
IV	(28) 教育実習	日本語教育実習		○	○	○		◎
IV	(33) 異文化コミュニケーション	英語G	○		○		◎	
V	(47) 言語運用能力							
V	(41) 日本語教育のための文字と表記	書道	○	◎				
II	(13) 多言語・多文化主義	教育社会学			○			◎
IV	(35) 日本語教育とICT	統計・情報(コンピュータ・リテラシー)		○				
IV	(36) 著作権							◎
II	(8) 社会言語学	日本語表現論A	◎	○	○			

II	(9)言語政策とことば	日本語表現論	◎	○	○		
V	(40)日本語教育のための音韻・音声体系	日本語表現論B	◎	○	○		
V	(43)日本語教育のための文法体系	日本語文法入門A	◎		○		
V	(43)日本語教育のための文法体系	日本語文法入門B	◎		○		
V	(43)日本語教育のための文法体系	表現文法論A	◎	○	○		
V	(43)日本語教育のための文法体系	表現文法論B	◎	○	○		
V	文化としての日本語	日本語史A	◎	○	○		
		日本語史B	◎	○	○		

- * 教育内容のうち、「年少者日本語教育」「指導案と教材の作成」「多言語多文化環境における子どもの言語習得」「文化としての日本語」は帝塚山大学が独自に設けるものである。
- * 主専攻とは「日本語教育機関の告示基準」(法務省入国管理局平成28年7月22日策定)第1条第1項第13号イで教員要件として求められた日本語教育に関する教育課程である。
- * 副専攻とは「日本語教育機関の告示基準」(法務省入国管理局平成28年7月22日策定)第1条第1項第13号ロで教員要件として求められた日本語教育に関する科目26単位以上を修得するものである。